

平成20年度第2回政策評価委員会 摘録

平成20年7月25日(金)

川崎市まちづくり公社 会議室 13:30~

議事1 平成19年度施策評価の検証結果について

委員長 各委員の御意見を伺いたい。

委員 資料の1ページ目だが、市の取り組んでいる255の全施策課題のうち検証対象とした107の施策課題について、分かりにくいので、もう少し説明ができないか。また、4ページ目の検証項目別の評点が2点以上となったものの“2点以上”の意味について、3つのチェックポイントのうちの2つ以上が満足しているということをつかせるようにした方が良い。

それから、あと、2つ、どうするかはお任せするが、9ページの提言1のところで、評価制度について人事制度との連携が触れられているが、予算との連携についても併記できないか。それから、前回の委員会で説明のあった、市民生活からやや離れている都市整備の分野や産業の分野は委員の評価点が低くなっており、教育だとか医療だとか市民に身近なところは が8割9割となっていることを踏まえて、市民に分かりにくく委員の評価点が低かった分野について、最後の取りまとめに入れるかどうか検討して欲しい。産業や都市整備の分野は、内容が難しいので、説明に工夫が必要であるといった意見を入れることはできないか。

委員長 身近なものについては、やや高い評価になっており、そうでないものについては、やや厳しい評価になっているという整理でどうかと思う。

委員 いまの最後の部分だが、乖離が大きかったというのは、我々、評価委員会の検証のシステム自体に課題があるということもあるかもしれない。検証の結果自体の検証が必要だと思う。

副委員長 さきほどの「産業や都市整備の分野は、内容が難しいので、説明に工夫が必要である」という意見に対しては、8ページの検証項目(5)のところで、一般市民に馴染みの薄い施策について、平易な記述を加える必要があるという改善意見が書かれているが、それでは不十分か。

委員 それで結構。

事務局 御指摘の点を踏まえて、「検証の対象となった107の施策課題」と「検証項目別の評点が2点以上となったものの“2点以上”の意味」については、説明を分かりやすくする。また、提言1のところ、予算の関係を記入することとしたい。

委員 検証の視点と手法について、実際に我々が行った検証、すなわちチェックシートとマニュアルで、どんな視点でどんな評価を行ったかを開示した方が良いと考える。

委員長 チェックシートやマニュアルを具体的に示すということか。

委員 具体的に我々が行ったことを示した方が良い。

事務局 ボリュームの問題もあるが、掲載するよう調整したい。

副委員長 これは、公表され、ホームページにも載るのか。

事務局 ホームページにも掲載される。

委員長 ボリュームの問題もあるが、見やすさという点にも配慮した方がよいだろう。

議事2 施策評価の改善に向けた今後の取組について

副委員長 例えば、自己評価でAという評価をして、その結果、予算等でインセンティブが付くのであれば、多少、分かりにくい説明をしても事業課としては特段、問題なく事業が推進できるということにはならないか。事業自体の成果は上がっていても、説明が分かりにくいという場合、すなわち評価委員会が行っている評価と相反する場合、どうなるのか。

委員長 事業自体は、大変、順調に行っているが、説明が悪いというケースについて、予算制度などと連携しているといった場合、どちらの評価が優先するのかということだ。

事務局　これまで、市内部では、評価について計画の進行管理、予算や組織管理の観点を中心として自己評価のチェックを行ってきたが、分かりやすさの視点でのチェックが十分でなく、そういった部分のチェックをこの委員会をお願いしてきたところがある。そういう意味で、事業そのものの評価自体については、市内部でも関係局でかなり力を入れて行ってきたが、今後は、単に事業そのものの評価だけでなく、説明責任を果たしているかという視点でのチェックを強化していきたいと考えている。

委員長　評価というのは、事業そのものの評価とその事業の説明責任が果たされているかという両輪で行われるべきものと考えてるので、事務局の説明にあったような方向性で、今後の取組をお願いできればと考える。

委員　その辺りの部分をもう少し明確にできないか。

委員長　その点については、資料2の今後の対応の中に、「事業評価と説明責任の両立」といった表現を加えてもらえると良いのではないかと。

委員　第1期実行計画から第2期実行計画へ移ったということで、評価からどんな改善が進んだのかということがどこかに示されていた方が良い。評価のPDCAサイクルがあった方が良いのではないかと。

事務局　第2期実行計画については、この1月、2月に各事業局で行った第1期実行計画の総括としての施策評価の結果も踏まえた上で、計画の策定を行っている。

委員長　そういう意味では、事業のPDCAサイクルは回っているが、評価の分かりやすさ、説明責任の部分についてのPDCAサイクルが見えにくい。表現の部分で工夫していただければと思う。

委員　今回、評価委員会で各委員が使った検証マニュアルの内容を事業課に具体的に伝えて欲しいと思う。その中でも特に、目標の記述をしっかりと書くということを事業課に対して指導して欲しい。目標が適切に記述されていないと検証マニュアルに基づいた評価は、全般に低くならざるを得ない。

事務局　評価委員会で使用した検証マニュアルの内容を踏まえて、今後、評価票入力マニュアルの充実を図りたいと考えており、御指摘の点については、是非、取り組んでいきたい。

議事3 その他

(1) モデル帳票の選定等について(委員提案議題)

前回の委員会で委員から、良く書かれている評価票をモデルとして選定し事務局に提示するようにはどうかと提案のあったモデルとなる評価帳票の選定について、事務局から「モデルとなる評価帳票を選定し、評価票の記載内容を整理した上で、改善意見とともに各局へ提示する」という基本的な考え方を説明、各委員の了承を得た。

(2) 成果の説明に対する評価の見解について(委員提案議題)

委員長 委員提案議題なので、まず、趣旨説明をお願いしたい。

委員 評価票の成果の説明について、この委員会での見解を確認するために提案する。この施策課題は、関係機関との調整に時間を要しており、事業が進捗しておらず、定量的な指標で成果を説明できないとしている。事情は理解できたが、こうした施策の成果の説明について、その評価を0点とするのか、それとも評価不能とし、検証対象項目の母数から除外すべきか、委員会として議論しておくべきではないかと考えるが、いかが。

副委員長 この施策は予算規模が大変大きい。こうした大きな施策こそ、市民の方々が知りたいと考えていると思う。評価不能という形で除外してしまうのは、どうか。関係機関との調整に時間を要しており、事業が進捗していないのであれば、そのことがきちんと書かれている必要があると思う。

委員 先ほど、委員としては“評価票の記述について、事情は理解できた、納得できた”という説明があった。ということは、細かな項目は置くとして、成果の説明はできているということにならないか。なぜ成果がないのかということが説明できているという意味で言えば、これはOKということかと思う。

委員長 少なくとも評価不能ということで、除外するのはいかがかと思う。当委員会としては、分かりやすく説明できているかどうかで、評価すべきと考えるが、どうだろうか。

委員 了解した。

委員 前回の委員会で提示された検証結果の資料を見ると、 \times の数がかなりばらけているものがあった。委員会として検証しているの、ある意味、ばらけているものが収斂していくようなマニュアルを研究するとか、来年に向けて、我々の検証結果の検証作業を行うことも必要ではないかと考える。

委員長 3年の評価が終わって、また新たなスタートになるので、このタイミングで、そうしたことも議論できれば良いと思う。

委員長 他に意見がなければ、質疑は以上としたいが、いかがか。

一同 異議なし。

以上